

- American Society for Gastrointestinal Endoscopy (ASGE) 2015 (DDW) 2015.5.16-19, Washington
11. Tamaru Y, Tanaka S, Oka S, Hiraga Y, Kunihiro M, Nagata S, Furudoji A, Ninomiya Y, Asayama N, Shigita K, Nishiyama S, Hayashi N, Chayama K: A multicenter cohort study of endoscopic submucosal dissection for anorectal tumor close to the dentate line. American Society for Gastrointestinal Endoscopy (ASGE) 2015 (DDW) 2015.5.16-19, Washington
 12. Yuge R, Kitadai Y, Takigawa H, Tanaka S, Yasui W, Chayama K: Inhibition of collagen receptor discoidin domain receptor-1 (DDR1) reduces colon cancer cell migration. GI research academy 2015.6.12, Tokyo
 13. Oka S, Tanaka S, Ninomiya Y, Sumimoto K, Hirano D, Tamaru Y, Asayama N, Shigita K, Hayashi N, Chayama K: Management of technically difficult endoscopic submucosal dissection for colorectal tumors. International Digestive Endoscopy Network (IDEN) 2015 2015.9.12-13, Seoul
 14. Yuge R, Kitadai Y, Takigawa H, Tanaka S, Yasui W, Chayama K: Inhibition of collagen receptor discoidin domain receptor-1(DDR1) reduces colon cancer cell migration. 第73回日本癌学会学術総会 2015.10.8-10, 名古屋市
 15. Takigawa H, Kitadai Y, Yuge R, Tanaka S, Yasui W, Chayama K: Treatment with regorafenib inhibits both tumor cells and stromal cells in orthotopic nude mice models of colon cancer. 第74回日本癌学会学術総会 2015.10.8-10, 名古屋市
 16. Shigita K, Tanaka S, Sumimoto K, Hirano D, Tamaru Y, Ninomiya Y, Asayama N, Hayashi N, Chayama K, Arihiro K, Nagata S: Clinical significance of subclassification for colorectal laterally spreading tumor (LST) granular type. 23th United European Gastroenterology Week (UEGW) 2015 2015.10.24-28, Barcelona
 17. Ninomiya Y, Tanaka S, Oka S, Hirano D, Sumimoto K, Tamaru Y, Asayama N, Shigita K, Hayashi N, Chayama K: Clinical usefulness of dual red imaging during colorectal endoscopic submucosal dissection. 23th United European Gastroenterology Week (UEGW) 2015 2015.10.24-28, Barcelona
 18. Oka S, Tanaka S, Igawa A, Kunihiro S, Nakano M, Chayama K: Evaluation for the clinical efficacy of colon capsule endoscopy in the detection of laterally spreading tumor. 23th United European Gastroenterology Week (UEGW) 2015 2015.10.24-28, Barcelona
 19. Kakugawa Y, Oka S, Saito S, Nouda S, Watanabe K, Ohmiya N, Aihara H, Matsumoto M, Noda I, Aoyama T, Kuramoto T, Hiiguchi K, Goto H, Arakawa T, Tanaka S, Saito Y, Tajiri H: Per polyp sensitivity of colon capsule endoscopy according to pathological diagnosis. 23th United European Gastroenterology Week (UEGW) 2015 2015.10.24-28, Barcelona
 20. Tari A, Kitadai Y, Asaoku H, Shinagawa K, Fujimori S, Tanaka S, Koga T, Yoshino T, Chayama K: Treatment of intestinal follicular lymphoma: Prospective study of comparison between watch and wait and rituximab-containing chemotherapy. 23th United European Gastroenterology Week (UEGW) 2015 2015.10.24-28, Barcelona
 21. Sumimoto K, Tanaka S, Oka S, Hirano D, Tamaru Y, Ninomiya Y, Shigita K, Asayama N, Hayashi N, Arihiro K, Chayama K: Clinical usefulness of Japan NBI Expert Team magnifying (JNET) classification for colorectal lesions. Advanced Diagnosis Endoscopy Course (ADEC) in Asian Pacific Digestive Week (APDW) 2015 2015.12.3-6, Taipei

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

特になし。

2. 実用新案登録

特になし。

3. その他

特になし。

Cowden 症候群に関する研究

研究分担者： 高山哲治 徳島大学大学院医歯薬学研究部消化器内科 教授

研究要旨

Cowden 症候群は、口腔内乳頭腫、顔面の外毛根鞘腫などの特徴的な皮膚粘膜病変、消化管ポリポース、などを認めるとともに、しばしば乳腺、甲状腺、中枢神経、泌尿生殖器などに過誤腫性病変認める常染色体優性遺伝性疾患である。また、肝硬変、アレルギー性疾患、自己免疫疾患、悪性腫瘍などをしばしば合併する。本邦における診断基準はないが、米国 NCCN が作成した診断基準が広く用いられている。重症喘息、知的障害などを合併する重症例が存在する。

A. 研究目的

Cowden 症候群は皮膚・粘膜、消化管、乳腺、甲状腺、中枢神経、泌尿生殖器などに過誤腫性病変が多発する常染色体優性遺伝性疾患であり、原因遺伝子の一つとして PTEN があげられている。本症候群の診療の実態把握を行い、全国規模の客観的な指標に基づく診断基準・重症度分類を確立し、難病の医療水準の向上を図る。

B. 研究方法

本症候群について、まず、海外及び本邦における論文を系統的に収集し、これまでの科学的根拠を集積・分析する。また、本邦における本症候群の診療実態を調査し、診断基準の作成および重症度の分類を行う。

(倫理面への配慮)

当学の倫理委員会の承認を得た上で行っている。また、データを匿名化し、患者個人を特定できないように配慮している。さらに、データは鍵の付いた保管庫に管理している。

C. 研究結果

本症候群は、口腔内乳頭腫、顔面の外毛根鞘腫などの特徴的な皮膚粘膜病変、消化管にはポリポースが認められ、高率に脂肪肝を合併する。有病率は、20～25万人に1人であり、原因遺伝子の一つに PTEN がある。また、全体で 30%に悪性腫瘍(乳癌、甲状腺癌、子宮体癌など)を合併する。さらに、アレルギー性疾患や自己免疫性疾患を高率に合併する。

本邦における診断基準はないが、米国 NCCN(2008)が作成した診断基準があり、本邦でも広く用いられている。重症度分類はないが、重症の指標として重症喘息、知的障害、泌尿生殖器奇形、Bannayan-Ruvalcan-Riley(BRRS)症候群、肝硬変、癌などの合併が考えられる。

D. 考察

本症候群は、特徴的な皮膚病変、消化管ポリポースなどを呈する常染色体優性遺伝性疾患である。原因遺伝子の一つに PTEN

遺伝子がある。診断は、NCCN の診断基準を用いて行われている。重症喘息、知的障害、泌尿生殖器奇形、Bannayan-Ruvalcan-Riley(BRRS)症候群、肝硬変、癌などの合併例が重症であると考えられる。

E. 結論

本症候群は、特徴的な皮膚病変、消化管ポリポーシスなどを呈する常染色体優性遺伝性疾患である。諸臓器の異常を合併する重症例が存在する。

G. 研究発表

1. 論文発表

Muguruma N, Takayama T. Narrow Band Imaging as an Efficient and Economical Tool in Diagnosing Colorectal Polyps. Clin Endosc 48 (6), 461-3, 2015.

2. 学会発表

該当無し

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

無し

2. 実用新案登録

無し

3. その他

無し

若年性ポリポーシス症候群の診断基準・重症度判定基準(案)作成とその課題

分担研究者：山本博徳 自治医科大学内科学講座消化器内科学部門 教授

協力者：坂本博次 自治医科大学内科学講座消化器内科学部門 講師

研究要旨

若年性ポリポーシス症候群を正しく診断し、重症度を的確に把握するために、国内外の報告を検討・評価し、診断基準・重症度判定基準を研究班で策定した。

A. 研究目的

若年性ポリポーシス症候群は消化管に過誤腫である若年性ポリープが多発する常染色体優性遺伝の疾患である。若年性ポリープは粘膜筋板筋繊維の増生が見られないため脆弱で、ポリープ全体または一部の脱落により出血を来す。ポリープが多発する場合には蛋白漏出性胃腸症に伴う低蛋白血症、低栄養を来すこともあり、ポリープ増大による腸重積を来すこともある。このため、若年性ポリポーシス症候群を適切に診断し、重症度に応じた的確な治療を行う事が重要である。海外では American College of Gastroenterology を初めとしていくつかの学会からガイドライン[1]が作成・発表されているが、本邦から発表されたものはない。そこで本研究班で診断基準・重症度判定基準案を策定することにした。

B. 研究方法

海外で発表されている若年性ポリポーシス症候群に関するガイドラインを詳細に検討し、国内外からの報告を元に妥当性を評価した。その上で本邦において有効に活用できる様に修正を行い診断基準・重症度判定基準案を策定した。

C. 研究結果

American College of Gastroenterology から発表されたガイドライン[1]では 1988 年に Jass らにより提唱されたもの[2]を基本として診断基準が定義されている。海外のその他のガイドライン、本邦からの症例報告、総説等[3]でも基本的には Jass らの診断基準が用いられていた。このため、Jass らの診断基準を基本とすることが妥当と考えられた。しかしこの診断基準では若年性ポリープの部位、個数が挙げられてはいたが、若年性ポリープの明確な定義が存在しなかった。このため、若年性ポリープを他のポリープと区別できるように今までの報告を元[4]に基準を追加した。現在のところ明らかになっている原因遺伝子は *SMAD4* 遺伝子、*BMPRIA* 遺伝子であり、それぞれ若年性ポリポーシス症候群の 20~30%程度に認められることが報告されている。すべての症例で遺伝子変異が確認されるわけではないが、変異が確認された場合はより確実な診断であるため Definite、そうでないものを Probable と定義することにした。

若年性ポリポーシス症候群の有病率はおよそ人口 10 万人に 1 名と報告されており[1]、それほど多くないためか重症度判定基準は海外のガイドラインも含め報告されているものは

存在しなかった。研究班で討議した結果、手術を要する病態については重症と判断することが妥当であると判断した。

研究班で策定した診断基準・重症度判定基準案を表に示す。

D. 考察

策定した診断基準・重症度判定基準案の妥当性については班員施設でその妥当性を検証する必要がある。

E. 結論

若年性ポリポース症候群の診断基準・重症度判定基準案を策定した。若年性ポリポース症候群診療の有用なツールになることが期待される。

参考文献

1. Syngal S, Brand RE, Church JM et al. ACG clinical guideline: Genetic testing and management of hereditary gastrointestinal cancer syndromes. Am J Gastroenterol 2015; 110: 223-262; quiz 263
2. Jass JR, Williams CB, Bussey HJ et al. Juvenile polyposis--a precancerous condition. Histopathology 1988; 13: 619-630
3. 山本 博幸, 小澤 俊一郎, 渡邊 嘉行ら 【家族性腫瘍学・家族性腫瘍の最新研究動向-】 症候群 Juvenile polyposis syndrome(若年性ポリポース症候群). 日本臨床 2015; 73: 131-135
4. Brosens LA, Langeveld D, van Hattem WA et al. Juvenile polyposis syndrome. World J Gastroenterol 2011; 17: 4839-4844

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 坂本 博次、宮田 康史、山本 博徳: 【十二指腸腫瘍をどうする】 全身性疾患に伴う十二指腸腫瘍(消化管ポリポース、von Recklinghausen 病、ZE など)。 消化器内視鏡; 27: 1184-1186、2015

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

若年性ポリポーシス症候群の診断基準

A 主要所見

1. 大腸に5個以上の若年性ポリープが認められる。
2. 全消化管(2臓器以上)に複数の若年性ポリープが認められる。
3. 個数を問わずに若年性ポリープが認められ、かつ、若年性ポリープの家族歴が認められる。
(上記3項目は、1988年 Jass らによる診断基準)

B 若年性ポリープの組織学的所見

1. 密な間質組織を伴う正常上皮組織の所見を認める。
2. 粘膜固有層を主座に、腺の嚢状拡張、粘膜の浮腫と炎症細胞浸潤を伴う炎症像を認める。
3. 粘膜筋板筋繊維の増生は認めない。
4. 介在粘膜には炎症/浮腫を認めない。

C 鑑別診断

以下の疾患を鑑別する。

Peutz-Jeghers 症候群、Cowden 症候群、Cronkhite-Canada 症候群

D 遺伝学的検査

1. SMAD4 遺伝子の変異
2. BMPR1A 遺伝子の変異

<診断のカテゴリー>

Definite: Aのうち1項目以上+Bのうち3項目以上を満たしCの鑑別すべき疾患を除外し、Dを満たすもの

Probable: Aのうち1項目以上+Bのうち3項目以上を満たしCの鑑別すべき疾患を除外したもの

<重症度分類>

1. アルブミン値 3.0g/dl 以下の低アルブミン血症
2. ヘモグロビン値 10.0g/dl 以下の貧血
3. 腸閉塞・腸重積、消化管癌合併の既往
上記、いずれかを有する症例を重症とする。

公開シンポジウム

プログラム

平成27年度 難治性疾患政策研究事業
公開シンポジウム

家族性大腸ポリポージス患者会

ハーモニー・ライフ、ハーモニー・ライン、ノール・アルモニー共催
日本家族性腫瘍学会後援

無料

消化管良性多発腫瘍好発疾患の
医療水準向上に向けて
大腸ポリポージスの指定難病認定を目指す

日時

2016年

1月31日(日) 13:00-16:00

会場

慶應義塾大学病院2号館11階大会議室

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 <http://www.hosp.keio.ac.jp/kotsu/>
JR 中央・総武線「信濃町」駅下車、徒歩約1分
地下鉄 都営大江戸線「国立競技場」駅下車(A1番出口)、徒歩約5分

家族性大腸ポリポージスについての概要

岩間毅夫

埼玉医科大学総合医療センター客員教授

シンポジウム

進行: 石川秀樹
武田祐子

京都府立医科大学特任教授
慶應義塾大学看護医療学部教授

シンポジスト:

家族性大腸ポリポージス患者会代表

石田秀行

埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科教授

伊藤道哉

東北大学大学院医学系研究科/
医学部公衆衛生学専攻公共健康医学講座講師

鍛冶信太郎

朝日新聞科学医療部記者

* 事前登録は不要です。どなたでもご参加いただけます。

お問い合わせ

武田祐子

慶應義塾大学看護医療学部/大学院健康マネジメント研究科

E-mail: takeday@sfc.keio.ac.jp

TEL 03-5363-2064

平成27年度 難治性疾患政策研究事業
公開シンポジウム

消化管良性多発腫瘍好発疾患の医療水準向上に向けて
大腸ポリポースの指定難病認定を目指す

【プログラム】

〔開会の挨拶〕

石川秀樹 京都府立医科大学特任教授

〔家族性大腸ポリポースについての概要〕

岩間毅夫 埼玉医科大学総合医療センター客員教授

〔シンポジウム〕

家族性大腸ポリポース患者会

ハーモニー・ライン代表／ハーモニー・ライフ代表

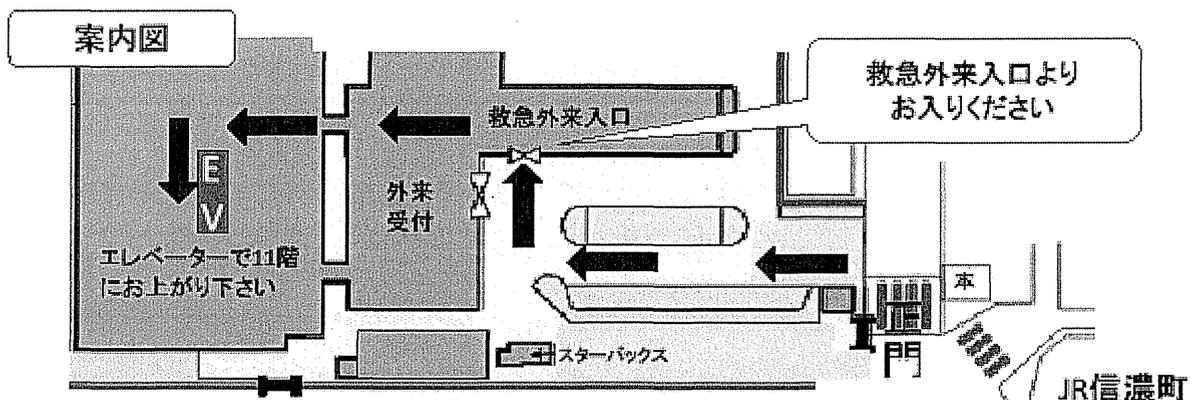
石田秀行 埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科教授

伊藤道哉 東北大学大学院医学系研究科／

医学部公衆衛生学専攻公共健康医学講座講師

鍛冶信太郎 朝日新聞科学医療部記者

(全体討議)



研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ishikawa H, Mutoh M, Iwama T, Suzuki S, Abe T, Takeuchi Y, Nakamura T, Ezoe Y, Fujii G, Wakabayashi K, Nakajima T, Sakai T.	Endoscopic management of familial adenomatous polyposis in patients refusing colectomy.	Endoscopy	48 (1)	51-5	2016
Hamada K, Takeuchi Y, Ishikawa H, Tonai Y, Matsuura N, Ezoe Y, Ishihara R, Tomita Y, Iishi H.	Feasibility of Cold Snare Polypectomy for Multiple Duodenal Adenomas in Patients with Familial Adenomatous Polyposis: A Pilot Study.	Digestive Diseases and Sciences	First Online 28 April	1-5	2016
Ueno H, Kobayashi H, Konishi T, Ishida F, Yamaguchi T, Hinoi T, Kanemitsu Y, Inoue Y, Tomita N, Matsubara N, Komori K, Ozawa H, Nagasaka T, Hasegawa H, Koyama M, Akagi Y, Yatsuoka T, Kumamoto K, Kurachi K, Tanakaya K, Yoshimatsu K, Watanabe T, Sugihara K, Ishida H.	Prevalence of laparoscopic surgical treatment and its clinical outcomes in patients with familial adenomatous polyposis in Japan.	Int J Clin Oncol	2016 Jan 28	Epub ahead of print	2016

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kohda M, Kumamoto K, Eguchi H, Hirata T, Tada Y, Tanakaya K, Akagi K, Takenoshita S, Iwama T, Ishida H, Okazaki Y.	Rapid detection of germline mutations for hereditary gastrointestinal polyposis/cancers using HaloPlex target enrichment and high-throughput sequencing technologies.	Fam Cancer	2016 Feb 2	Epub ahead of print	2016
Kominami Y, Tanaka S, et al.	Computer-aided diagnosis of colorectal polyp histology by using a real-time image recognition system and narrow-band imaging magnifying colonoscopy.	Gastrointest Endosc	83 (3)	643-649	2016
Asayama N, Tanaka S, et al.	Long-term outcomes after treatment for T1 colorectal carcinoma.	Int J Colorectal Dis	31 (3)	571-578	2016
Shigita K, Tanaka S, et al.	Clinical significance and validity of the subclassification for colorectal laterally spreading tumor granular type.	J Gastroenterol Hepatol	31 (5)	973-979	2016
Kawaguchi Y, Tanaka S, et al.	Mouse model of proximal colon-specific tumorigenesis driven by microsatellite instability-induced Cre-mediated inactivation of Apc and activation of Kras.	J Gastroenterol	51 (5)	447-457	2016
坂本博次、宮田康史、 山本博徳	【十二指腸腫瘍をどうする】全身性疾患に伴う十二指腸腫瘍（消化管ポリポース、von Recklinghausen病、ZEなど）	消化器内視鏡	27	1184- 1186	2016

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yamaguchi T, Furukawa Y, Nakamura Y, Matsubara N, Ishikawa H, Arai M, Tomita N, Tamura K, Sugano K, Iahioka C, Yoshida T, Moriyama Y, Ishida H, Watanabe T, Sugihara K.	Comparison of clinical features between suspected familial colorectal cancer type X and Lynch syndrome in Japanese patients with colorectal cancer: a cross-sectional study conducted by the Japanese Society for cancer of the colon and rectum.	Jpn J Clin Oncol	45 巻 2 号	153-159	2015
Kumamoto K, Ishida H, Ohsawa T, Ishibashi K, Ushiyama M, Yoshida T, Iwama T.	Germline and somatic mutations of the APC gene in papillary thyroid carcinoma associated with familial adenomatous polyposis: Analysis of 3 cases and review of the literature.	Oncol Lett	10 巻 4 号	2239-2243	2015
松澤岳晃, 石田秀行, 近範泰, 鈴木興秀, 石橋敬一郎, 岩間毅夫	家族性大腸がんの頻度・診断と治療	腫瘍内科	16 巻 3 号	225-230	2015
石田秀行, 渡辺雄一郎, 近範泰, 田島雄介, 鈴木興秀, 松澤岳晃, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫	大腸外病変に対する対応—胃・十二指腸病変とデスモイド腫瘍	日本大腸肛門病学会雑誌	68 巻 10 号	908-920	2015
石田秀行, 岩間毅夫	遺伝性大腸癌: 家族性大腸腺腫症, MUTYH 関連ポリポーシス, リンチ症候群	日本臨牀	73 巻 増刊号 4	59-64	2015
石田秀行, 岩間毅夫, 富田尚裕, 小泉浩一, 赤木究, 石黒めぐみ, 渡邊聡明, 杉原健一	遺伝性大腸癌の診療とガイドライン	日本臨牀	73 巻 増刊号 6	547-551	2015

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
小林宏寿, 岩間毅夫, 石田秀行	Familial adenomatous polyposis (家族性大 腸腺腫症)	日本臨牀	73 卷 増刊号 6	94-98	2015
田島雄介, 石田秀行	家族性大腸腺腫症 (FAP)	臨床画像	31 卷 増刊号 10	105-108	2015
松澤岳晃, 近範泰, 田島雄介, 鈴木興秀, 石畝亨, 傍島潤, 隈元謙介, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行	遠隔転移を伴う大腸 癌を合併した家族性 大腸腺腫症の治療経 験	家族性腫瘍	15 卷 2 号	27-30	2015
鈴木興秀, 近範泰, 福地稔, 隈元謙介, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 江口英孝, 持木彫人, 赤木究, 石田秀行	MSI-H と MSH2/MSH6 蛋白 発現の欠失を認めた 横行結腸癌を合併し た家族性大腸腺腫症 の 1 例	癌と化学療法	42 卷 12 号	2208- 2210	2015
田島雄介, 幡野哲, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 近範泰, 小野澤寿志, 松澤岳晃, 持木彫人, 山口研成, 赤木究, 岩間毅夫, 石田秀行	Stapled Ileal-Pouch Anal Anastomosis 後の残存直腸に繰り 返し発生した粘膜内 癌に対し全周性の粘 膜切除を施行した家 族性大腸腺腫症の 1 例	癌と化学療法	42 卷 12 号	2199- 2201	2015
近範泰, 隈元謙介, 鈴木興秀, 山本梓, 田島雄介, 渡辺雄一郎, 小野澤寿志, 松澤岳晃, 江口英孝, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行	回腸人工肛門周囲に 発生した FAP 合併 デスモイド腫瘍の 1 例	癌と化学療法	42 卷 12 号	1947- 1949	2015

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
田島雄介, 隈元謙介, 山本梓, 近範泰, 渡辺雄一郎, 松澤岳晃, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫, 赤木究, 石田秀行	家族性大腸腺腫症に 合併した異時性多発 甲状腺乳頭癌の1例	癌と化学療法	42 巻 12 号	1833- 1835	2015
渡辺雄一郎, 馬場裕之, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石川秀樹, 石田秀行	家族性大腸腺腫症に 併存した十二指腸神 経内分泌腫瘍の1例	癌と化学療法	42 巻 12 号	1764- 1766	2015
渡辺雄一郎, 馬場裕之, 傍島潤, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石川秀樹, 石田秀行	小切開下に腓温存全 十二指腸切除術を施 行した FAP の1例	癌と化学療法	42 巻 12 号	1761- 1763	2015
石橋敬一郎, 渡辺雄一郎, 近範泰, 田島雄介, 鈴木興秀, 松澤岳晃, 隈元謙介, 福地稔, 熊谷洋一, 馬場裕之, 持木彫人, 岩間毅夫, 石田秀行	家族性大腸腺腫症に 発生した子宮内膜 癌、卵巣癌、十二指 腸癌の1例	癌と化学療法	42 巻 12 号	1715- 1717	2015
Asayama N, Tanaka S, et al.	Long-term outcom es after treatment for pedunculated- type T1 colorectal carcinoma: a multi center retrospectiv e cohort study.	J Gastroent erol	10.1007/s0 0535-015-1 144-2	On line 1-9	2015
Häfner M, Tanaka S, et al.	Local fractal dime nsion based appro aches for colonic p olyp classification.	Med Image Anal	26 (1)	92-107	2015

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kominami Y, Tanaka S, et al.	Evaluation of dual-wavelength excitation autofluorescence imaging of colorectal tumours with a high-sensitivity CMOS imager: a cross-sectional study.	BMC Gastroenterol	15 (110)	On line 1-6	2015
Tamaru Y, Tanaka S, et al.	Early squamous cell carcinoma of the anal canal resected by endoscopic submucosal dissection.	Case Rep Gastroenterol	30 (9)	120-125	2015
Saito Y, Tanaka S, et al.	Evaluation of the clinical efficacy of colon capsule endoscopy in the detection of lesions of the colon: prospective, multicenter, open study.	Gastrointest Endosc	82 (5)	861-869	2015
Watanabe T, Tanaka S, et al.	Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum. Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) Guidelines 2014 for treatment of colorectal cancer.	Int J Clin Oncol	20 (2)	207-239	2015
Horimatsu T, Tanaka S, et al.	Next-generation narrow band imaging system for colonic polyp detection: a prospective multicenter randomized trial.	Int J Colorectal Dis.	30 (7)	947-954	2015
Urabe Y, Tanaka S, et al.	Impact of revisions of the JSCCR guidelines on the treatment of T1 colorectal carcinomas in Japan.	Z Gastroenterol	53 (4)	291-301	2015

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Tanaka S, Kashida H, et al.	(JGES Guidelines) Colorectal endoscopic submucosal dissection/endoscopic mucosal resection guidelines.	Dig Endosc	27 (4)	417-434	2015
Tanaka S, Saitoh Y, et al.	Evidence-based clinical practice guidelines for management of colorectal polyps.	J Gastroenterol	50 (3)	252-260	2015
Asayama N, Tanaka S, et al.	Endoscopic submucosal dissection as total excisional biopsy for clinical T1 colorectal carcinoma.	Digestion	91 (1)	64-69	2015
Tanaka S, Asayama N, et al.	Towards safer and appropriate application of endoscopic submucosal dissection for T1 colorectal carcinoma as total excisional biopsy: Future perspective.	Dig Endosc	27 (2)	216-222	2015
Yuge R, Tanaka S, et al.	mTOR and PDGF Pathway Blockade Inhibits Liver Metastasis of Colorectal Cancer by Modulating the Tumor Microenvironment.	Am J Pathol	185 (2)	399-408	2015
Uraoka T, Tanaka S, et al.	Feasibility of a novel colonoscope with extra-wide angle of view: a clinical study.	Endoscopy	47 (5)	444-448	2015
Wada Y, Tanaka S, et al.	Predictive factors for complications in endoscopic resection of large colorectal lesions: a multicenter prospective study.	Surg Endosc	29 (5)	1216-1222	2015

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yamamoto H, Tanaka S, et al.	Double-balloon enteroscopy is safe and effective for the diagnosis and treatment of small-bowel disorders: A prospective multicenter study performed by expert and non-expert endoscopists in Japan.	Dig Endosc	27 (3)	331-337	2015
Muguruma N, Takayama T.	Narrow Band Imaging as an Efficient and Economical Tool in Diagnosing Colorectal Polyps	Clinical Endoscopy	48 (6)	461-463	2015

研究成果の刊行物・別刷